

令和6年度 研究の概要

名古屋市数学研究会中高関連研究グループ

㊦丸の内中 坪井 大知 志段味中 安藤 康晃
千鳥丘中 淡路 尚広 御幸山中 小川 智子

中高間を結ぶ教材とその実態 ～高等学校入学者学力テストの結果を踏まえて～

1 研究のねらい

Dグループでは、上記の研究テーマについて40年間継続的に研究してきた。

今年度も、これまでの研究を継続しつつ、高等学校入学者学力テストの分析内容を踏まえた効果的な指導方法を考える。このことを柱として、数学教育の研究を行い、秋の中高連絡協議会で中学校の立場から今日の数学教育の現状や問題点を協議することで、中高6年間の数学教育を充実したものにする。

2 研究の内容

(1) 高等学校入学者学力テストの分析

6月中旬に予定されている中高連絡協議会における「高等学校新入学生徒の学力に関する研究」の発表内容を基に、協議で話題となった問題について、本研究グループ内で分析する。

(2) 高等学校入学者学力テストに関連した中学校における指導方法の考案

中高連絡協議会で協議された内容と、グループ内での分析結果を基に、高等学校入学者学力テストの中から問題を抽出する。そして、その問題の内容を精査し、どの段階でどのようにつまづいているかを把握し、その問題点を探る。その後、中学校の指導内容と照らし合わせ、中高間の関連を重視した、中学校における指導方法を考案する。

※中高連絡協議会…6月11日（火）場所：松蔭高校

(3) 指導例の実践

考案した指導方法を、指導例として提案する。そして、その指導例を基に授業を展開する。